

(仮称) 中野区グローバル都市戦略(たたき台)について

中野区におけるグローバル戦略の策定にあたっては、中野区グローバル戦略推進協議会において協議を重ねてきた。この度、これまでの検討を踏まえ、(仮称) 中野区グローバル都市戦略(以下、「グローバル都市戦略」という。)をたたき台としてとりまとめたので報告する。

1 グローバル都市戦略(たたき台)の概要

※詳細は別紙参照

第1章 グローバル都市戦略の策定

(1) グローバル都市戦略策定の趣旨

国家戦略特別区域の指定によるビジネスチャンスの拡大、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたインバウンドの増加など、あらゆる機会を捉え、中野の立地特性や集積する産業・文化等の強みを最大限に生かし、活力あるグローバルな都市づくりを進めるための戦略を策定する。

(2) グローバル都市戦略の性格

グローバル都市戦略は、中野区グローバル戦略推進協議会に参画する産学公金がともに主体となってグローバル都市づくりに関わるにあたり、共有すべき目標や行動の指針となる性格を持つものである。

(3) 目標とする時期

50年後(2065年)にも選ばれる都市を目指していくため、25年後(2040年)を目標として、グローバルな都市づくりを推進していく。

第2章 グローバル都市戦略の背景

(1) 現状と課題

国際競争力の強化に向けては、中野の弱みを克服しながら、強みを活かして差別化を図っていく必要がある。中野駅周辺における今後の都市再生などの機会を活かし、発展性と創造性に富んだグローバル都市の形成や活動基盤の創出が求められている。

(2) 今後の人口構造

東京都の人口推計では、2020年を境に昼夜間人口ともに減少するとされている。一定の活力や生産力を確保していくには、夜間人口の維持とともに昼間人口の増加を図り、相乗的に昼夜間人口を引き上げる方策を打ち出していく必要がある。

第3章 グローバル都市NAKANO構想

50年後にも選ばれる都市を目指していくため、25年後(2040年)にグローバルビジネス拠点として活力に満ちている姿や、新たな文化・価値を創出し続けるクリエイティブな都市の姿、だれもが住み続けたいと思う高質な職住近接都市の姿を描く。

(1) 基本コンセプト

『個性豊かな都市活動を、中野から世界へ。』

(2) グローバル都市づくりの方向性

① 都市再生を軸としたグローバルビジネス拠点の形成

【目標とする都市像】

業務・商業空間等の拡大によって、昼間人口を5万人増加

② 集客力と発信力のあるグローバルな都市活動基盤の構築

【目標とする都市像】

毎週1万人規模の催事によって、来街者を50万人増加

③ 外国人にも暮らしやすい生活環境の整備

【目標とする都市像】

高質な生活空間の整備によって、夜間人口30万人を維持

第4章 グローバル都市戦略

(1) 拠点整備戦略「中野駅周辺グローバルプロジェクト」

- ・中野駅周辺における拠点性の強化
- ・集客交流施設を起点とした差別化
- ・中央線沿線都市圏文化・産業連携
- ・産学公金連携によるビジネス・イノベーションの促進

(2) 都市観光戦略「都市観光パートナーシップ推進」

- ・都市観光連携体制の構築
- ・都市観光インフラ整備における公民連携
- ・中央線沿線ツーリズムの展開
- ・パートナーシップ都市連携強化

(3) 生活環境戦略「職住近接を促す生活環境整備」

- ・職住近接の促進
- ・身近な生活サービスの充実
- ・安心・安全のコミュニティ形成

2. 今後の予定

平成27年11月	第4回幹事会	グローバル都市戦略（たたき台）の検討
平成28年 1月	第5回幹事会	グローバル都市戦略（案）の検討
3月		グローバル都市戦略をテーマとしたフォーラムの開催

（仮称）中野区グローバル都市戦略（たたき台）

グローバル都市

NAKANANOの創造

個性豊かな都市活動を、中野から世界へ。

目次

第1章 (仮称)中野区グローバル都市戦略の策定	1
1. (仮称)中野区グローバル都市戦略策定の趣旨	1
2. (仮称)中野区グローバル都市戦略の性格	2
3. 目標とする時期	2
第2章 (仮称)中野区グローバル都市戦略の背景	3
1. 現状と課題	3
2. 今後の人口構造	5
第3章 グローバル都市N A K A N O構想	6
1. 基本コンセプト	6
2. グローバル都市づくりの方向性	7
(1) 都市再生を軸としたグローバルビジネス拠点の形成	7
(2) 集客力と発信力のあるグローバルな都市活動基盤の構築	8
(3) 外国人にも暮らしやすい生活環境の整備	9
第4章 グローバル都市戦略	10
1. 拠点整備戦略「中野駅周辺グローバルプロジェクト」	10
2. 都市観光戦略「都市観光パートナーシップ推進」	12
3. 生活環境戦略「職住近接を促す生活環境整備」	14

第1章 (仮称)中野区グローバル都市戦略の策定

1. (仮称)中野区グローバル都市戦略策定の趣旨

グローバル経済を軸とした東京や日本における国際競争力の強化が図られる中、今後の都市再生の取り組みを見据え、中野区におけるグローバルな都市活動拠点の形成に向けた、持続可能な都市の成長モデルを描いていくことが求められています。

人口減少や少子高齢化といった日本全体が抱える課題を乗り越え、50年後を見越した活力ある都市を目指していくには、人・文化・産業・情報が集積する拠点の整備とともに、だれもが暮らしやすい地域環境の向上を図ることが必要です。

これからの中野の都市づくりは、都市再生を軸としたグローバルビジネス拠点の形成、集客力と発信力のあるグローバルな都市活動基盤の構築、外国人にも暮らしやすい生活環境の整備に取り組み、中野ならではの個性豊かなライフスタイルを発信するグローバル都市を目指していきます。生活の質を高めるあらゆる産業が活性化し、さらには海外への発信力を持つことで、都市としての体力や成長力を持ち続けることができると考えます。

国家戦略特別区域の指定によるビジネスチャンスの拡大、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機としたインバウンドの増加など、あらゆる機会を捉え、中野の立地特性や集積する産業・文化等の強みを最大限に生かし、活力あるグローバルな都市づくりを進めるための戦略を策定します。

2. (仮称)中野区グローバル都市戦略の性格

(仮称)中野区グローバル都市戦略は、中野区グローバル戦略推進協議会における協議、検討を経て区が策定するもので、2040年(25年後)を目標としたグローバル都市づくりの方向性や取り組み等を示したものです。

中野区グローバル戦略推進協議会に参画する産学公金がともに主体となってグローバル都市づくりに関わるにあたり、共有すべき目標や行動の指針となる性格を持つものです。

3. 目標とする時期

50年後(2065年)にも選ばれる都市を目指していくため、25年後(2040年)を目標として、グローバルな都市づくりを推進していきます。

第2章 (仮称)中野区グローバル都市戦略の背景

1. 現状と課題

中野区は、交通利便性の高さや都心と多摩をつなぐ立地特性を強みとし、中野四季の都市（まち）のような新たな都市機能と旧来の商店街が同居する街並み、多様な文化や活動の集積などが「中野らしさ」の源泉といえます。

一方、事業所や集客資源、滞在空間の少なさ、災害危険度や道路交通基盤の脆弱さなどが弱みであり、ポテンシャルの高さを指摘されながらも、機会損失を生じている可能性も否定できません。社会インフラの整備を伴う都市構造の転換を図らなければ解決することが困難な課題も抱えています。

国際競争力の強化を図るためには、質的に優れたインフラストックの増加・更新とともに、ヒト・モノ・カネ・情報といった資源のフローの活発化を図っていくことが必要であります。中野の弱みを克服しながら、強みを活かして差別化を図っていく戦略が求められています。

こうした状況を打破していくには、社会経済活動における制約要因の解消とともに、グローバルな視野から社会経済を捉え直していく必要があります。中野駅周辺における今後の都市再生などの機会を活かし、発展性と創造性に富んだグローバル都市の形成や活動基盤の創出が求められています。

＜中野の環境分析＞

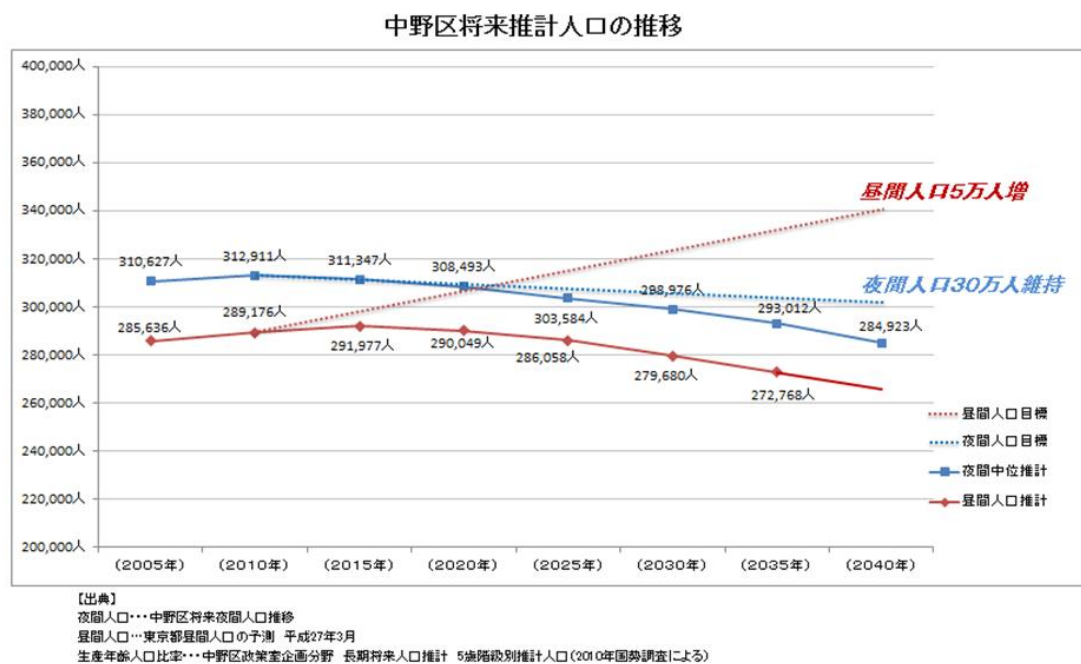
強 み	○ 中野駅周辺における都市再生 ○ 全国区の商店街・集客施設の存在 ○ 大学等の集積、学生・留学生の増加 ○ 20代人口の相対的割合の高さ ○ 交通利便性の高さ、都心と多摩をつなぐ立地特性 ○ 強固な地盤 ○ 住んで良かったまちとしての評価 ○ 多彩で活発な文化活動	弱 み	○ 業務や商業集積の少なさ ○ 宿泊施設、大型駐車場等滞在空間の不足 ○ 全国区の観光スポット、大規模集客施設等誘客につながる資源の不足 ○ 海外からの認知度の低さ ○ 脆弱な道路交通基盤 ○ 木密地域の災害危険度
機 会	○ 東京オリンピック・パラリンピック ○ 国家戦略特区の指定 ○ ICTの進展、IoTの可能性 ○ 外国人観光客の増加及び旺盛な購買意欲 ○ 近隣区にも集積するアニメ・マンガ産業の連携可能性 ○ 健康・スポーツ産業の成長可能性	脅 威	○ 少子高齢・人口減少社会 ○ オリンピック後の経済成長減速 ○ 高騰する建設費 ○ 高まる大規模災害リスク ○ 新宿等他の都市の優位性、都市間競争 ○ 地球温暖化に伴う気象リスク

2. 今後の人口構造

東京都の人口推計では、2020年を境に昼夜間人口ともに減少するとされています。中野区は、他の都市と比べて比較的緩やかといえますが、全体の人口だけでなく生産年齢人口の割合を注視しなければなりません。

一定の活力や生産力を確保していくには、夜間人口の維持とともに昼間人口の増加を図り、相乗的に昼夜間人口を引き上げる方策を打ち出していく必要があります。

中野四季の都市（まち）のオフィスビルや大学の立地により、昼間人口が2万人増えています。今後の中野駅周辺開発においてオフィスビルを整備する計画もあり、さらなる昼間人口の増加が見込まれます。区内では国家公務員宿舎等跡地での大規模な住宅開発の計画もあることから、職住近接を促進する機会が到来しているといえます。



第3章 グローバル都市NAKANO構想

1. 基本コンセプト

50年後にも選ばれる都市を目指していくため、25年後（2040年）にグローバルビジネス拠点として活力に満ちている姿や、新たな文化・価値を創出し続けるクリエイティブな都市の姿、だれもが住み続けたいと思う高質な職住近接都市の姿を描いていきます。

<基本コンセプト>

個性豊かな都市活動を、中野から世界へ。

成熟した生活都市の中で、活発に繰り広げられる多彩な経済・文化・交流活動。
職住近接だからこそ実現できる、個性豊かなライフスタイルを、
中野から世界へ発信していきます。

2. グローバル都市づくりの方向性

(1) 都市再生を軸としたグローバルビジネス拠点の形成

中野区は、区役所・サンプラザ地区再整備をはじめとする中野駅周辺の都市再生や西武新宿線の連続立体交差化、各地区のまちづくりなど、都市構造の大きな転換期を迎えています。

こうした取り組みによって業務・商業・集客交流施設・住宅など都市機能の拡充や再編が見込まれるところであり、各プロジェクトの推進に加え、国内外からのさらなる投資を促していく必要があります。

中野の立地特性や都市機能、文化などのポテンシャルを最大限に引き出し、グローバルに展開するビジネスの拠点として選ばれる都市づくりを推進していきます。

【目標とする都市像】

業務・商業空間等の拡大によって、昼間人口を5万人増加

- 現在計画している中野駅周辺都市再生プロジェクトが完了し、さらなるプロジェクトによって業務・商業空間が拡大している。
- グローバルに展開している産業の業務集積が図られ、都内でも特色のあるグローバルビジネス拠点として位置づけられている。
- 産学公連携や広域連携によって、新たな産業を生み出すプラットフォームが形成されている。

（２）集客力と発信力のあるグローバルな都市活動基盤の構築

中野四季の都市（まち）の開発以降、多様な主体によって様々なイベントが催されるようになり、中野の活力の源泉となっています。イベントが開催されるごとに、その発信力も高まっています。

「中野らしさ」をより効果的に発信するとともに、世界的なイベントや国際会議等の誘致、滞在空間の確保、関連する産業の連携などを進めることによって、数倍の集客力と収益性を高めていくことが重要です。

中野の活力の源泉となるイベントや個性的な文化活動など、多様なコンテンツの集客力と発信力の強化に向け、活動基盤の整備や推進体制を構築していきます。

【目標とする都市像】

毎週 1 万人規模の催事によって、来街者を 5 0 万人増加

- ハイカルチャーからサブカルチャーまで多種多様なイベントや健康増進につながるスポーツイベントが多数催され、「クールジャパン」や「ウェルネス」を体現する都市としてのイメージが確立している。
- 大規模な集客交流施設、商店街、道路、公園などが多目的に活用され、まち全体がイベント空間となっている。
- 総合的なプロデュース体制が構築され、効果的かつ効率的にイベントが開催されている。

(3) 外国人にも暮らしやすい生活環境の整備

観光やビジネス、学業などの目的で来訪する外国人が増加しており、特に2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、その傾向が続くと見られています。

地域が培ってきた安全で安心な環境と社会資源を活かし、だれにも暮らしやすい包容力のあるコミュニティを目指していくために、ビジネスや観光など短期滞在における地域情報案内、宿泊などのニーズ、長期滞在における住居、医療、教育、就業、生活サービスなどのニーズをとらえ、グローバル化対応に早急に取り組んでいく必要があります。

ビジネスや観光など短期滞在者への対応に加え、長期滞在の外国人にも暮らしやすい職住近接につながる生活環境を整備していきます。

【目標とする都市像】

高質な生活空間の整備によって、夜間人口30万人を維持

- 生活・コミュニケーションの支援サービスや多様なライフスタイルを受入れるコミュニティが形成され、外国人にも暮らしやすい生活環境となっている。
- 職住近接による時間的余裕が新たな都市活動や価値創出につながっている。
- 住宅ストックの増加や更新がなされ、利便性が高く高質な生活空間として、外国人にも人気の高い住宅地となっている。

第4章 グローバル都市戦略

1. 拠点整備戦略「中野駅周辺グローバルプロジェクト」

■中野駅周辺における拠点性の強化

中野駅周辺を、東京や日本の国際競争力強化の一翼を担うグローバルな都市活動拠点と位置づけ、区役所・サンプラザ地区再整備をはじめとする中野駅周辺各地区における都市再生プロジェクトによって、人・文化・産業・情報等の集積を高めるとともに、スマートな環境・防災都市づくりによって、防災性や業務継続性、経済性、環境性に優れた空間を整備し、拠点性の強化を図ります。

■集客交流施設を起点とした差別化

区役所・サンプラザ地区再整備において検討している大規模な集客交流施設では、音楽、スポーツ、祭典といったエンターテインメントや国際会議、展示会といったビジネスイベントなど、様々な催事を見込んでいます。

中野の文化創造性を発展させ、新たなビジネスチャンスを生み出す集客交流施設を起点としながら、各地区のプロジェクトにおけるビジネス環境の整備と親和性のある企業・団体の誘致を進めるなどして、他の都市との差別化を図っていきます。

■中央線沿線都市圏文化・産業連携

中央線沿線を軸とした東京西部都市圏における自治体間の文化・産業連携を構築し、文化振興や観光推進、新産業創出などによって圏域経済の活性化を図るとともに、海外や訪日外国人に向けたプロモーション、関連ビジネスのグローバル展開を促進します。

中野は、中野駅周辺の拠点整備によって、広域からの集客と交流の場、圏域と世界をつなぐ情報収集・発信機能を強化し、中央線沿線都市圏における国際競争力強化に向け、リーダーシップを発揮していきます。

■産学公金連携によるビジネス・イノベーションの促進

産学公金の広域連携や異業種交流などを通じて、競争力のある新たな財・サービスを生み出すビジネス・イノベーションを促進します。

中野区の重点産業であるライフサポート産業やＩＣＴ・コンテンツ産業においては、こうした連携を通じたビジネス・マッチングやスタートアップ促進を図ります。

また、グローバルの視点から、外国人の生活をサポートするビジネスや、外国人材、留学生などによるビジネスのスタートアップ、グローバル人材の育成、雇用創出などに取り組みます。

<主な取り組み>

取組事項	内容
中野駅周辺都市再生プロジェクト	【区役所・サンプラザ地区再整備】 ○ 多目的に使える大規模な集客交流施設の整備 ○ グローバルビジネス拠点の核となる業務商業等集積 【中野駅地区整備】 ○ 中野駅西側南北通路及び橋上駅舎、駅ビルの整備 ○ 新北口及び西口駅前広場の新設、南口駅前広場の拡張整備 【各地区における都市開発】 ○ 中野二丁目地区市街地再開発事業（業務・商業・住宅） ○ 中野三丁目地区土地区画整理事業 ○ 囲町地区市街地再開発事業（業務・商業・住宅） ○ 地区計画に基づくまちづくりの誘導 ○ ユニバーサルデザインのまちづくり推進
スマートな環境・防災都市づくり	○ 災害時業務継続地区（ＢＣＤ）の構築 ○ 平常時における効率的なエネルギー活用
中央線沿線都市圏文化・産業連携	○ 中央線沿線都市圏の自治体・関係団体・大学等における文化・産業連携体制の構築 ○ 自治体連携による文化・産業政策形成
産学公金連携によるビジネス・イノベーションの促進	○ 金融機関を中心とした広域ビジネス・マッチング ○ 各機関が保有するビッグデータのビジネス活用 ○ 産学公金連携によるシンクタンク機能やコンサルティング機能の構築 ○ 外国人材や留学生によるビジネススタートアップ ○ 国内外で行われる展示会などへの出展促進 ○ 大学連携によるグローバル人材育成・雇用創出

2. 都市観光戦略「都市観光パートナーシップ推進」

■都市観光連携体制の構築

中野駅周辺は、様々な規模のホールや教育機関、商業施設・商店街が立地しており、道路や公園なども含めまち全体の空間を連携させて活用することで、より大規模でユニークなイベントを演出することが可能です。

名実ともにグローバルな都市活動拠点としていくため、大規模な国際的イベントなど集客力と発信力のあるコンテンツによって誘客を進めます。

こうした取り組みにあたって、シティプロモーションやイベントの誘致・企画、ブランド化など総合的なプロデュース体制の構築や、エリアマネジメント組織の組成を図ります。

また、ロケ地としての活用を推進するため、フィルムコミッション体制を構築します。

■都市観光インフラ整備における公民連携

中野を訪れる外国人観光客が、適切な地域情報を得て安心して楽しめるよう、案内表示等の多言語化やNAKANNO Free Wi-Fi、デジタルサイネージの整備・誘導など、公民連携による情報環境を整備していきます。

また、外国人向け滞在施設（民泊）の整備・誘導を図るとともに、まちなかの多言語化を進め、中野の日常的な暮らしや繁華街での飲食が味わえ、哲学堂公園をはじめとする歴史・文化や、ハイカルチャーからサブカルチャーまで多様なコンテンツが楽しめる「中野ツーリズム」の展開を図ります。

■中央線沿線ツーリズムの展開

中央線沿線の各都市は、独自の文化や街並みを形成しているうえ、アニメ・マンガなどのコンテンツ産業が集積しており、単体での誘客に加え、連携して中央線沿線の魅力を発信することによって、さらなる誘客を進めることができます。

こうした都市観光にかかる市場調査やルート開発、移動手段の確保、商品化、外国人向け販売促進など、総合的なマーケティング連携を進め、中央線沿線ツーリズムの展開を図ります。

■ パートナースhip都市連携強化

東日本大震災復興関連自治体や里・まち連携自治体、海外の姉妹都市との連携を強化し、文化交流や観光・産業連携を進めることによって、経済活性化を図ります。

<主な取り組み>

取組事項	内容
都市観光連携体制の構築	○ ホール、教育機関、商業空間、道路・公園等施設間連携によるまちまるごと空間活用 ○ 音楽、スポーツ、祭典など大規模な国際的イベントの誘致・企画 ○ コンベンション施設における国際会議、学会などビジネスイベントの誘致 ○ 総合的なプロデュース体制の構築 ○ エリアマネジメント組織の組成 ○ フィルムコミッション体制の構築
都市観光インフラ整備における公民連携	○ 公共空間や店舗等における案内表示の多言語化 ○ Nakano Free Wi-Fi 整備、民間連携拡大 ○ デジタルサイネージ整備・誘導、情報コンテンツの共有化 ○ 外国人向け滞在施設（民泊）整備・誘導 ○ 哲学堂公園周辺整備 ○ 中野ツーリズムの展開
中央線沿線ツーリズムの展開	○ 中央線沿線観光マーケティング体制の構築 ○ 海外に向けたシティプロモーションの強化 ○ アニメ・マンガなどコンテンツ産業の観光連携
パートナーシップ都市連携強化	○ パートナーシップ自治体との観光・産業連携強化 ○ 海外姉妹都市との観光・産業連携強化

3. 生活環境戦略「職住近接を促す生活環境整備」

■職住近接の促進

中野駅周辺における拠点性強化は、業務・商業集積を招き、就業人口の増加をもたらします。これにより、区内に住まい通勤し、時間的余裕を様々な活動に活用する、職住近接の生活スタイルを選択する人が増えることも想定されます。

高質でユニバーサルな都市空間と安心・安全に過ごせる生活空間が同居する中野ならではの街並みを、外国人にも職住の場として選択してもらえるよう、生活空間を整備していきます。

■身近な生活サービスの充実

外国人の滞在に際して、文化的な多様性が確保され、良好な生活空間のもと、自らの生活スタイルを送れる環境が求められます。

母国での生活や文化に配慮した飲食、生活サービスの充実に加え、公共サービス、医療、教育、子育て、介護・福祉、健康・スポーツなどあらゆるサービスにおける外国人対応の充実を図ります。

■安心・安全のコミュニティ形成

日常生活において、日本語のみの案内表示ではわからない、生活上のルールや習慣が理解しにくい、医療や教育、契約といった様々な場面での行き違いなどの問題が生じます。

外国人が安心・安全に過ごせるよう、まちなかの多言語対応に加え、あらゆる生活場面での相談に応えるサポート体制や留学生の協力体制など、人的対応を拡充します。

また、地域における多文化共生や異文化理解を促進するため、人材育成や外国人との交流の機会を増やし、だれにとっても安心・安全なコミュニティの形成を目指します。

＜主な取り組み＞

取組事項	内容
身近な生活サービスの充実	○ 店舗や施設等における生活・文化に配慮した飲食や生活サービスの促進 ○ クオリティの高い商業空間の誘導 ○ 公共サービスにおける外国人対応の拡充 ○ 医療機関における外国人対応の拡充 ○ インターナショナルスクールの誘致 ○ 子育て、学習支援、介護・福祉など外国人向けライフサポートビジネスの誘導 ○ 外国人も利用しやすい健康・スポーツ環境の整備 ○ 災害時の外国人対応拡充
まちなか多言語対応	○ 公共空間や店舗等における案内表示の多言語化 ○ ICTを活用したコミュニケーションツールの導入
外国人生活サポート体制の拡充	○ 外国人生活サポートセンターの整備 ○ 留学生による外国人生活モニタリング ○ 多文化共生ボランティア人材の育成 ○ 外国人との交流機会の拡充